

2 子どもの生活の状況

(1) 携帯電話（スマートフォンを含む）

小学2年生に携帯電話（スマートフォンを含む）を持たせている割合は17.9%と、平成13年出生児の6.3%に比べて11.6ポイント高く、持たせた時期は、「小学1年生から」が68.8%と最も高い

平成22年出生児について、携帯電話（スマートフォンを含む）を「持たせている」割合は17.9%、「持たせていない」割合は81.9%となっている。平成13年出生児と比較すると、「持たせている」の割合が11.6ポイント高くなっている。

また、平成22年出生児について、携帯電話（スマートフォンを含む）を「持たせ始めた時期」についてみると、「小学1年生から」が68.8%と最も高く、平成13年出生児と比較しても、ほぼ同様の結果となっている。（表1）

表1 携帯電話(スマートフォンを含む)の有無・持たせ始めた時期の世代間比較

(単位: %)

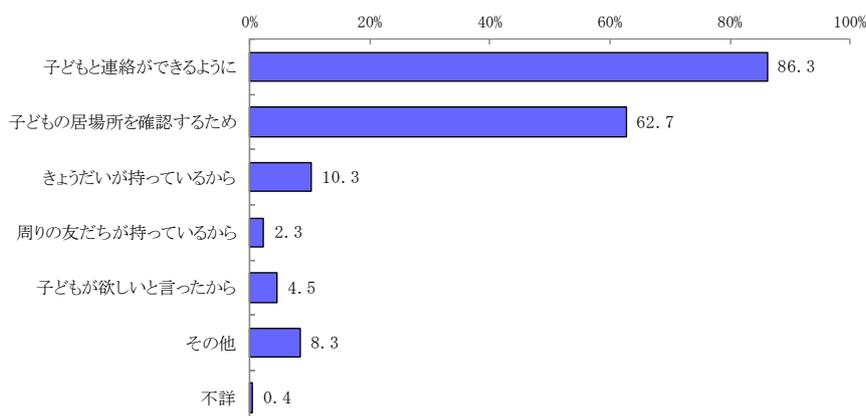
	総数	携帯電話を持たせていない	携帯電話を持たせている	持たせ始めた時期				不詳
				小学校に入学する前から	小学1年生から	小学2年生から	不詳	
平成22年出生児								
総数	100.0	81.9	17.9 (100.0)	(12.0)	(68.8)	(18.9)	(0.3)	0.2
男児	100.0	84.5	15.2 (100.0)	(11.2)	(70.2)	(18.3)	(0.3)	0.2
女児	100.0	79.1	20.7 (100.0)	(12.6)	(67.7)	(19.4)	(0.3)	0.2
平成13年出生児								
総数	100.0	93.1	6.3 (100.0)	(10.3)	(65.4)	(22.6)	(1.7)	0.6
男児	100.0	94.4	5.0 (100.0)	(10.7)	(66.0)	(21.6)	(1.7)	0.6
女児	100.0	91.6	7.7 (100.0)	(10.0)	(64.9)	(23.3)	(1.7)	0.6
世代間比較増減(ポイント) (平成22年出生児－平成13年出生児)								
総数		△ 11.2	11.6	(1.7)	(3.4)	(△ 3.7)	(△ 1.4)	△ 0.4
男児		△ 9.9	10.2	(0.5)	(4.2)	(△ 3.3)	(△ 1.4)	△ 0.4
女児		△ 12.5	13.0	(2.6)	(2.8)	(△ 3.9)	(△ 1.4)	△ 0.4

注：第8回調査の回答を得た者（平成13年出生児総数 36,136、平成22年出生児総数 24,441）を集計。

携帯電話（スマートフォンを含む）を持たせた理由（複数回答）は、「子どもと連絡ができるように」が86.3%と最も高い

携帯電話（スマートフォンを含む）を持たせた理由（複数回答）をみると、「子どもと連絡ができるように」が86.3%と最も高く、次いで「子どもの居場所を確認するため」が62.7%、「きょうだいが持っているから」が10.3%の順となっている。（図3）

図3 携帯電話(スマートフォンを含む)を持たせた理由(複数回答)



注：第8回調査の回答を得た者のうち、携帯電話(スマートフォンを含む)を持たせている者(総数 4,370)を集計。

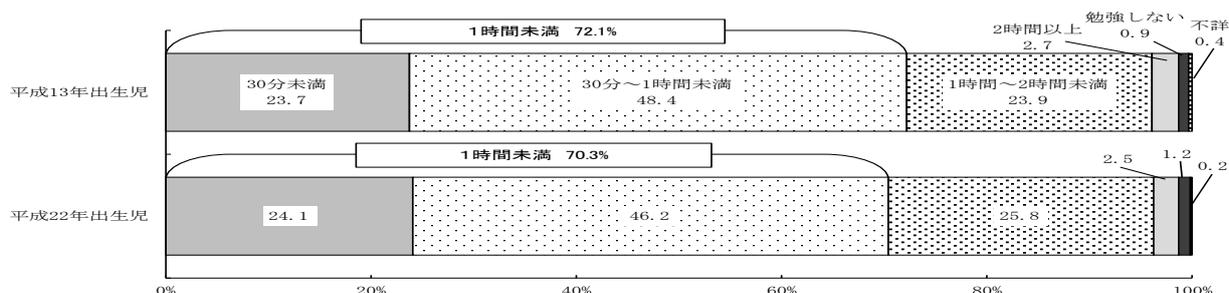
(2) 学校以外での1日の勉強時間

学校以外の勉強時間（宿題や学習塾等を含む）は1時間未満が約7割

平成22年出生児について、子どもがふだんしている学校以外での1日の勉強時間（宿題や学習塾等を含む）をみると、「30分～1時間未満」が46.2%と最も高く、次いで「1時間～2時間未満」が25.8%、「30分未満」が24.1%の順となっている。

また、平成13年出生児と比較すると、いずれも約7割が1時間未満の勉強時間となっている。（図4）

図4 学校以外の勉強時間の世代間比較

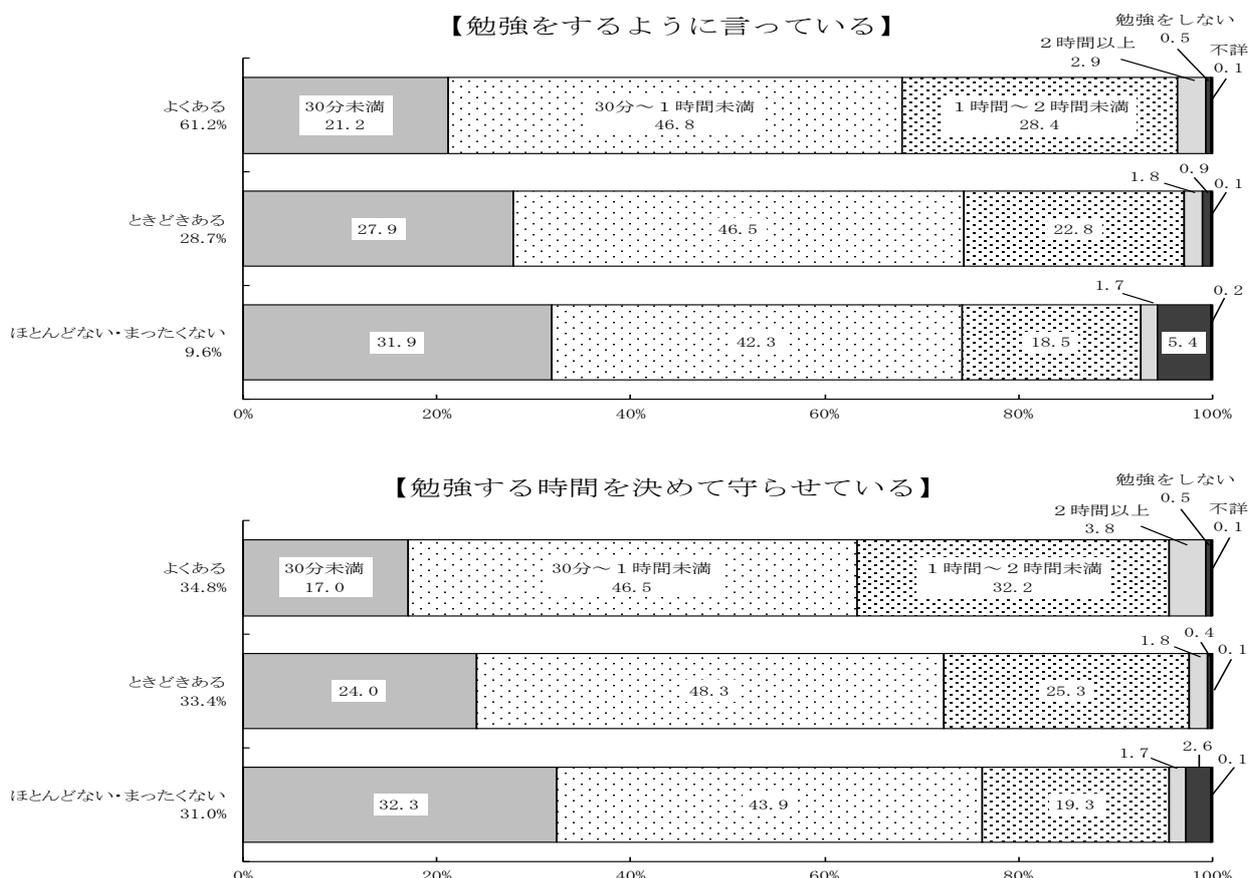


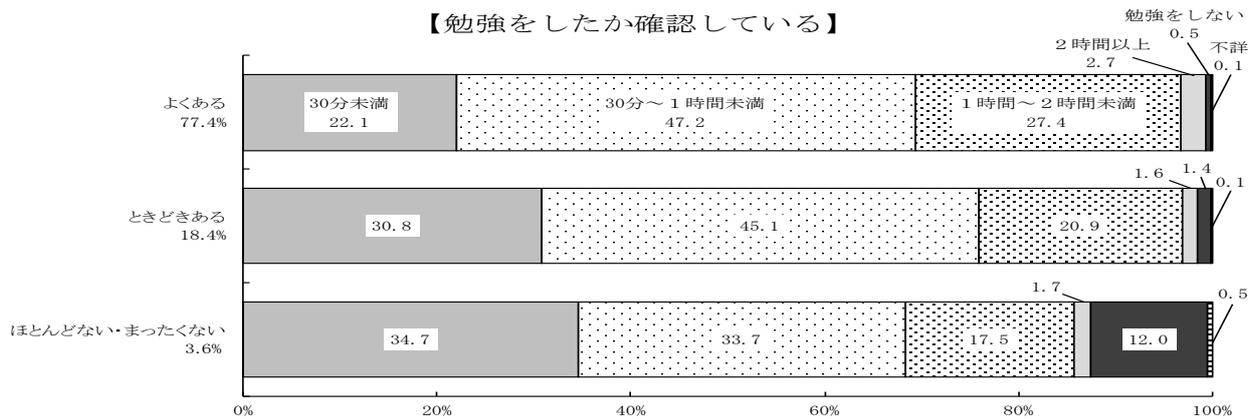
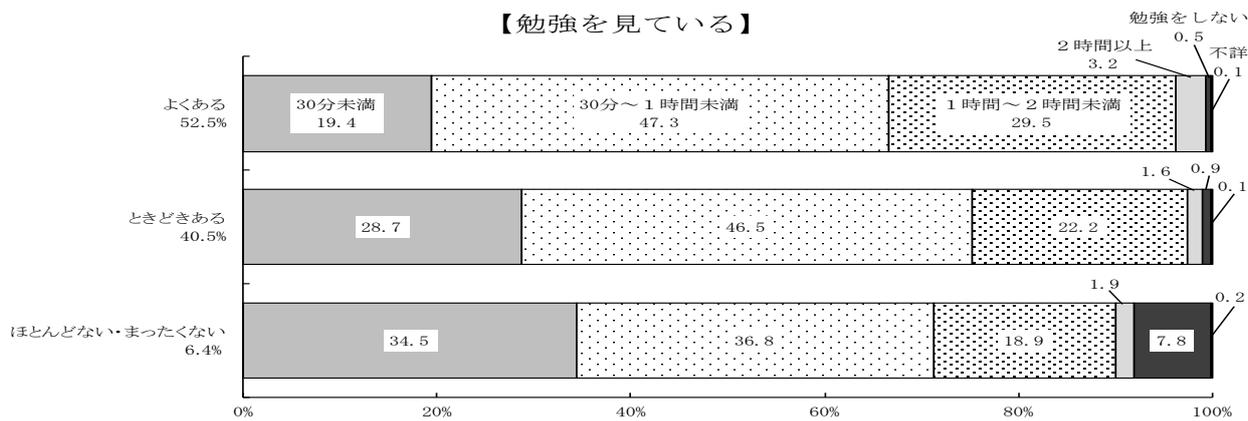
注：第8回調査の回答を得た者（平成13年出生児総数 36,136、平成22年出生児総数 24,441）を集計。

母の家庭学習への関わりが「よくある」方が学校以外の勉強時間が長い

平成22年出生児について、母の家庭学習への関わり方別に子どもがふだんしている学校以外での1日の勉強時間（宿題や学習塾等を含む）をみると、すべての関わり方で「よくある」方が勉強する時間が長くなっている。（図5）

図5 母の家庭学習への関わり方別にみた子どもの学校以外の勉強時間





注：第8回調査の回答を得た者のうち、母と同居している者（平成22年出生児総数 24,322）を集計。

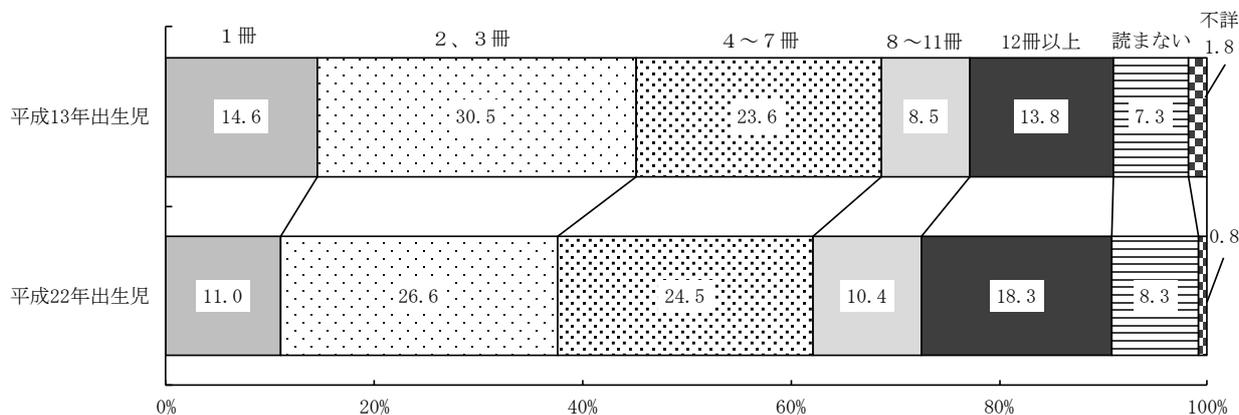
(3) 読書習慣

平成13年出生児に比べて、1か月間に4冊以上の本（児童書、絵本など）を読む割合が上昇

平成22年出生児について、1か月間に子どもの読む本（児童書、絵本など）の冊数をみると、「2、3冊」が26.6%と最も高く、次いで「4～7冊」が24.5%となっている。

また、平成13年出生児と比較すると、4冊以上読む割合は上昇し、3冊以下の割合は低下している。（図6）

図6 子どもの読書習慣の世代間比較

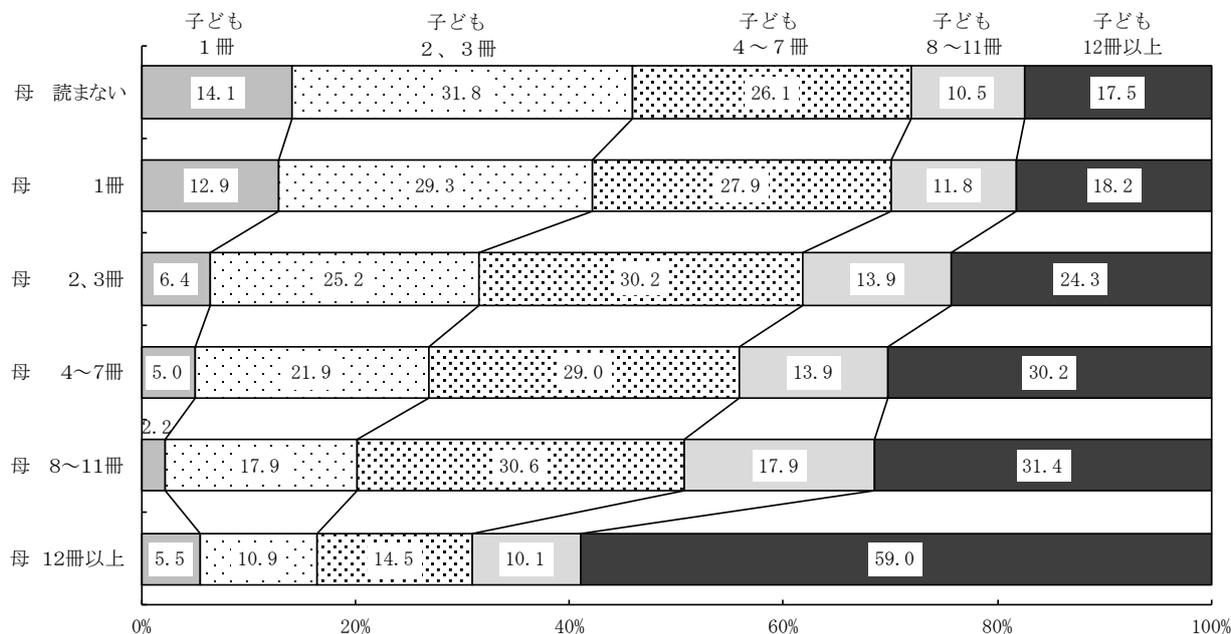


注：第8回調査の回答を得た者（平成13年出生児総数 36,136、平成22年出生児総数 24,441）を集計。

本(文庫・単行本など)を多く読む母・父の子どもは、本(児童書、絵本など)を読む冊数が多い

母・父の読書習慣ごとに、子どもの冊数(1冊以上読んでいる者)をみると、母・父ともに冊数が多くなれば、子どもの冊数も多くなる傾向となっている。(図7-1)(図7-2)

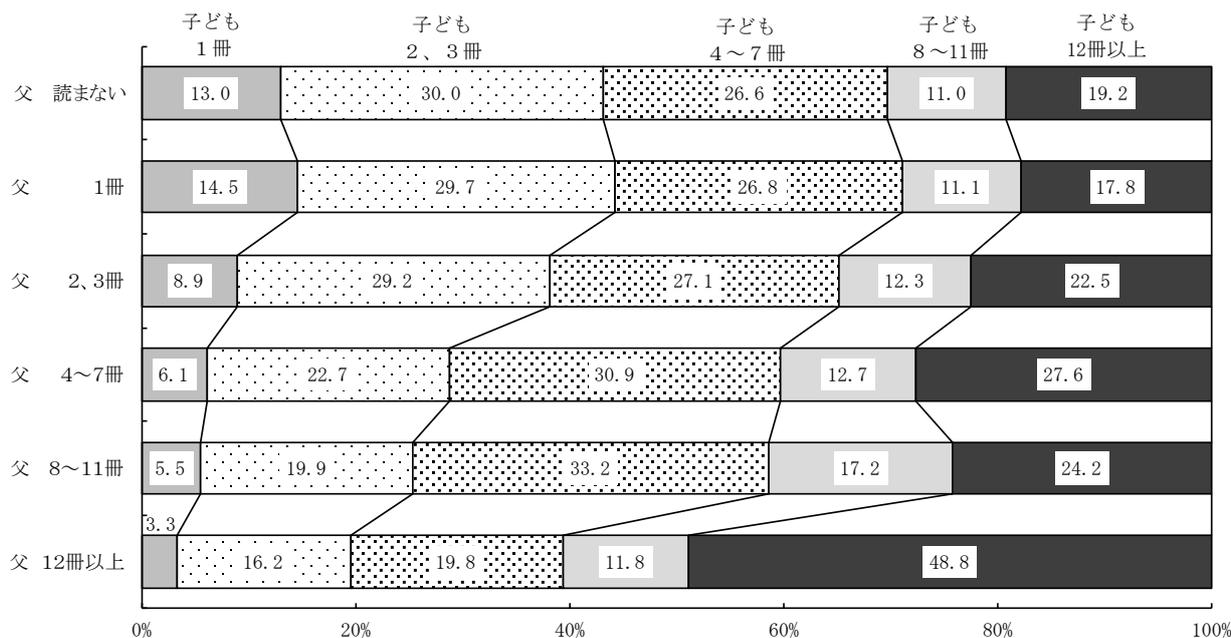
図7-1 母の1か月に読んだ本の数別にみた子どもの1か月に読んだ本の数



注:1)第8回調査の回答を得た者のうち、母と同居している者(総数 24,322)を集計。

2)母の冊数毎の数値は、子どもの読む冊数の回答を得た者をそれぞれ100としている。

図7-2 父の1か月に読んだ本の数別にみた子どもの1か月に読んだ本の数



注:1)第8回調査の回答を得た者のうち、父と同居している者(総数 22,780)を集計。

2)父の冊数毎の数値は、子どもの読む冊数の回答を得た者をそれぞれ100としている。